



スギ



ヒノキ



コナラ



ミズナラ



ブナ

(5) 動植物

由布岳、黒岳に代表される豊かな緑や大分川水系の水に生まれ、由布市には多様な生物が生息・生育しています。

挾間町谷周辺の山王川流域で行なわれた調査では、イヌハギ、シラン(維管束植物)、カヤネズミ、テングコウモリ(ほ乳類)、ハチクマ、ハイタカ(鳥類)、ニホンイシガメ(は虫類)、オオイタサンショウウオ、アカハライモリ(両生類)、コガタノゲンゴロウ、ツマグロキチョウ(昆虫類)、ニホンウナギ(魚類)、マシジミ(陸・淡水産貝類)などの「レッドデータブックおおいた2011」や環境省のレッドリスト¹⁹に掲載されている希少な野生動植物が確認されています。

また、由布岳野焼き草原調査会が行った由布岳南麓の植物相調査結果では、ヤマドリゼンマイ、シノブなどのシダ植物10科18種、ヒメユリ、エヒメアヤメなどの種子植物81科481種の計91科499種の植物が確認されており、由布岳南麓は多様な植物の生育地となっています。

大分県が行った河川整備計画の予備調査結果によると、各調査区間で環境指標種(広域的に見た減少種、優れた環境を指標する種、種群として優れた湿地を指標する種、特殊な繁殖生態を持つ種)が確認されていることから、大分川水系河川の生物相は豊かであると評価されています。特に湯布院地域ではさまざまな重要種が確認されています。

湯布院地域では、オンセンミスゴマツボ(県指定天然記念物)の生息が現在、世界で唯一確認されており、由布市はその保護活動に取り組んできました。

河川や湖沼では、豊かな生物相を有する一方で、生活排水に含まれる窒素・リンといった栄養塩類²⁰や温泉排水が河川・湖沼へ流入することで水質の悪化や水温の上昇が生じ、ボタンウキクサやオオカナダモ、オオセキショウモ、オオフサモなどの外来植物やティラピアなどの外来魚が増殖しており、生態系への影響が懸念されています。

豊かな水と緑に生まれ、多様な生物が生息・生育する一方、水質の悪化や外来種による生態系への影響が懸念される

19. 環境省レッドリスト：環境省が作成した絶滅のおそれがある野生生物の種のリストのことです。

20. 栄養塩類：陸水や海水に含まれ、植物プランクトンや藻類の栄養になる物質のことです。

【希少な動植物】



イヌハギ



カヤネズミ



ハチクマ



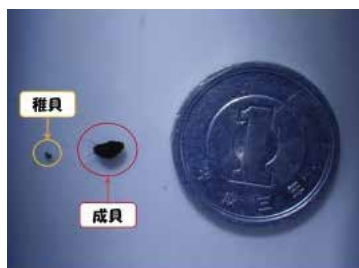
ニホンイシガメ



オオイタサンショウウオ



コガタノゲンゴロウ



オンセンミズゴマツボ

【外来植物】



ボタンウキクサ



オオカナダモ



オオセキショウモ

アサギマダラ

由布市内では、田植え時期の春や秋口にアサギマダラの飛来が確認されています。

この蝶は、フジバカマなどのキク科の花の蜜が好きで、長距離を移動することが知られています。

市内のある集落では、フジバカマが群生しており、秋になるとアサギマダラが飛来し、吸蜜する姿を見ることができます。



(6)自然公園

由布市には、自然公園²¹法に基づく阿蘇くじゅう国立公園の第1種～第3種特別地域、普通地域、大分県立自然公園条例に基づく神角寺芹川自然公園の普通地域があります。

阿蘇くじゅう国立公園が3,063ha、神角寺芹川県立自然公園が1,371haで、自然公園の面積(4,434ha)は、市の面積の13.9%を占めています。

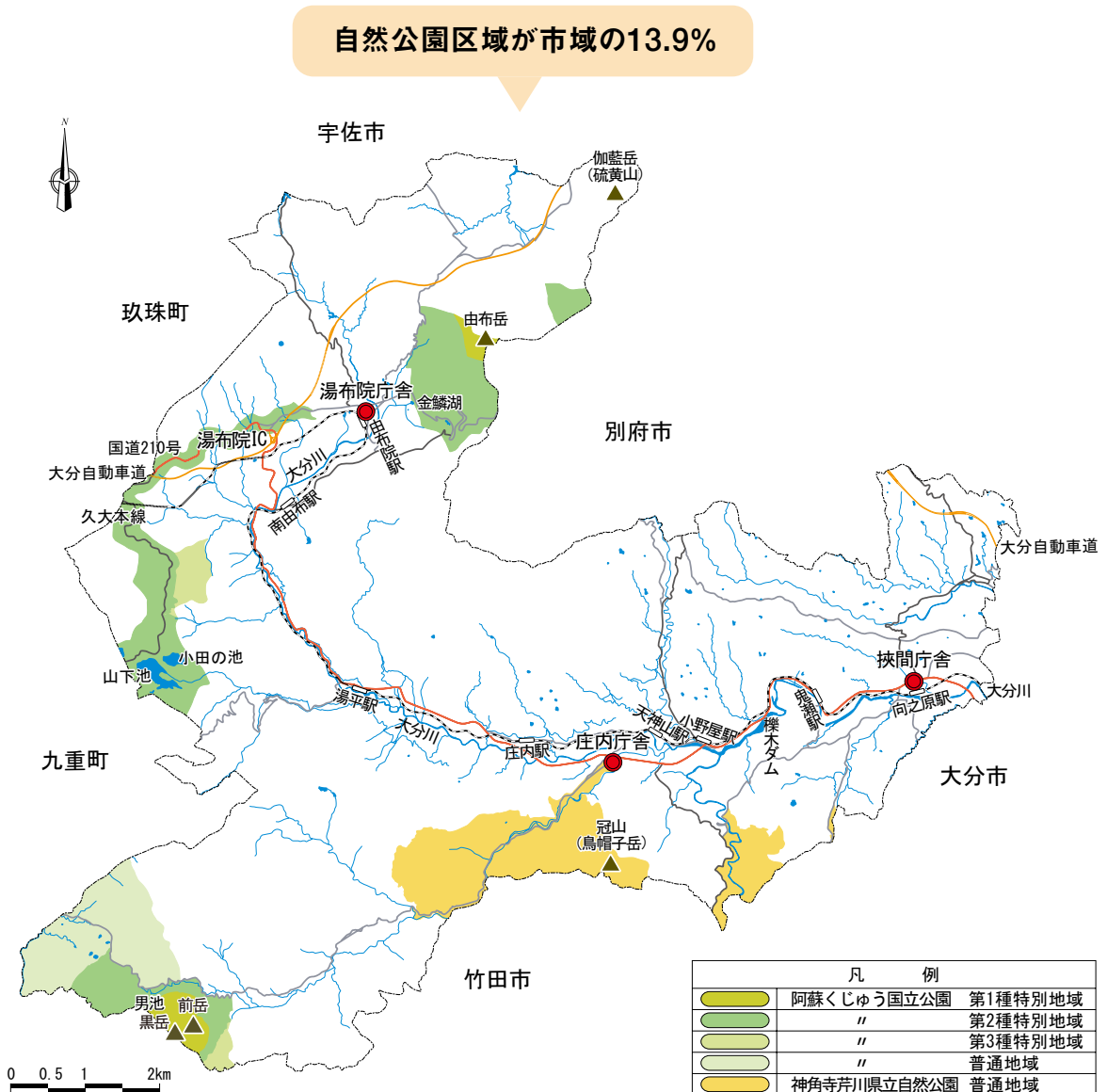


図20 自然公園

資料：国土数値情報 自然公園地域データ平成23年度、大分県、大分の自然公園(大分県自然公園等配置図)(大分県)

21. 自然公園：優れた美しい自然の風景地を保護していくとともに、その中で自然に親しみ、野外レクリエーションを楽しむことができるように、自然公園法や県の自然公園条例に基づいて指定された公園のことです。

(7) 景観

由布市の風景は、由布院盆地や大分川の河岸段丘(川の流れて沿ってつくられた階段状の地形)などのさまざまな地形構造から成り立っています。特に、由布岳に代表される山岳や森林、草原、水田の広がりなどの緑豊かな眺望は由布市の貴重な風景資産です。また、傾斜地の地形を巧みに利用した農村集落や大分川によって形成された河岸段丘に広がる市街地など、静かで落ち着いた生活空間やまち並みそのものが貴重な景観となっています。地域固有の歴史文化を感じる史跡や樹木なども数多く点在しています。由布院盆地では、景観計画区域を設定して景観まちづくりを進めています。

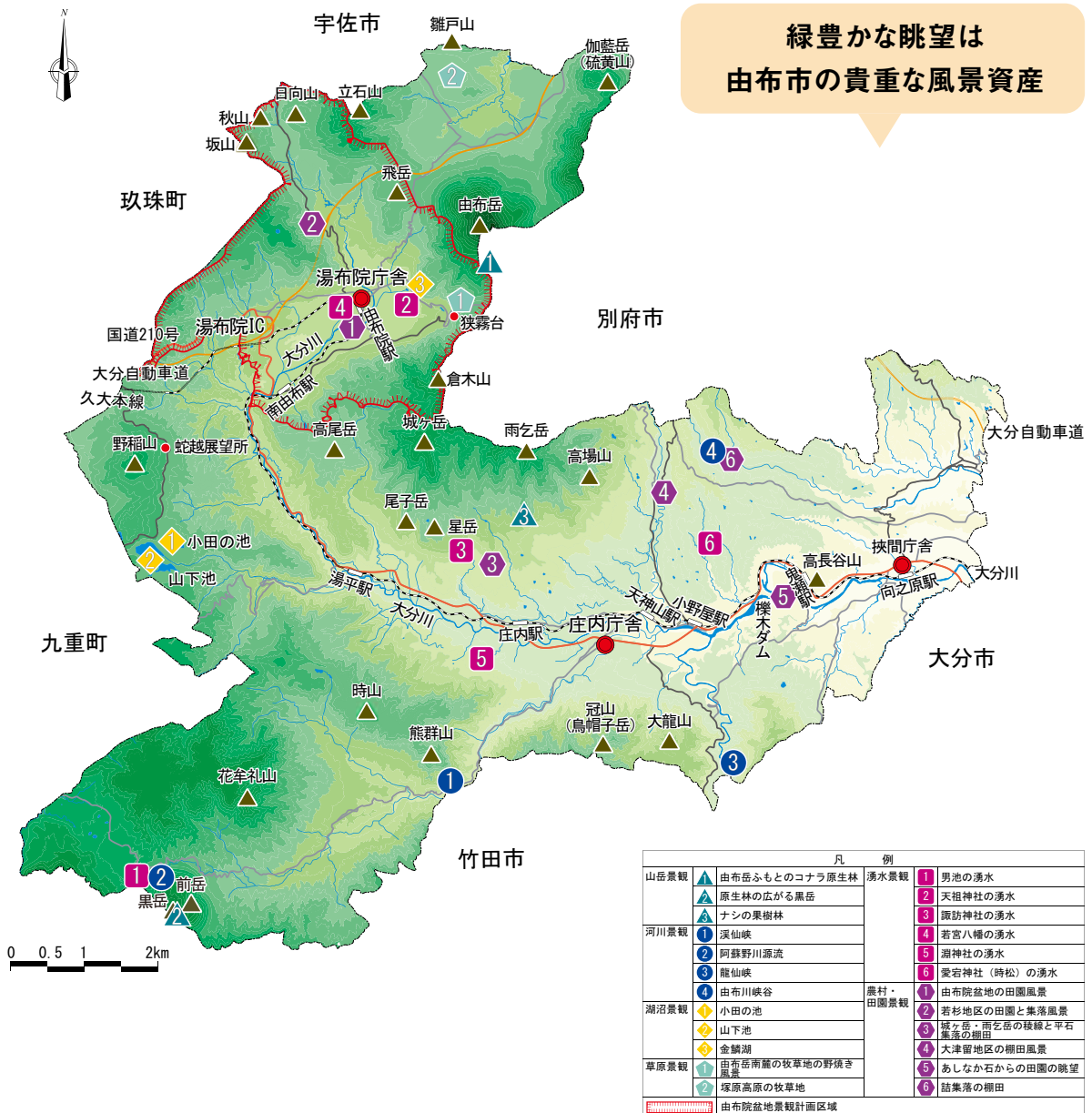


図21 景観資源

資料：景観マスタープラン(由布市)をもとに作成

(8) 廃棄物

由布市内のごみは、11種類(①燃やせるごみ、②燃やせないごみ、③スプレー缶、④プラスチック製容器包装、⑤アスベスト含有家庭用品、⑥蛍光管・電球・水銀体温計、⑦ビン・カン類、⑧ペットボトル、⑨乾電池、⑩古紙・布類、⑪大型・粗大ごみ)に分別して収集し、大分市の福宗清掃工場で処理されています。

由布市のごみの総排出量は、横ばいの傾向にあります。しかし、1人1日あたり排出量をみると、平成20年以降は県平均を上回って推移しています。また、平成25年のリサイクル率は6.9%で県平均の20.3%を大きく下回っています。

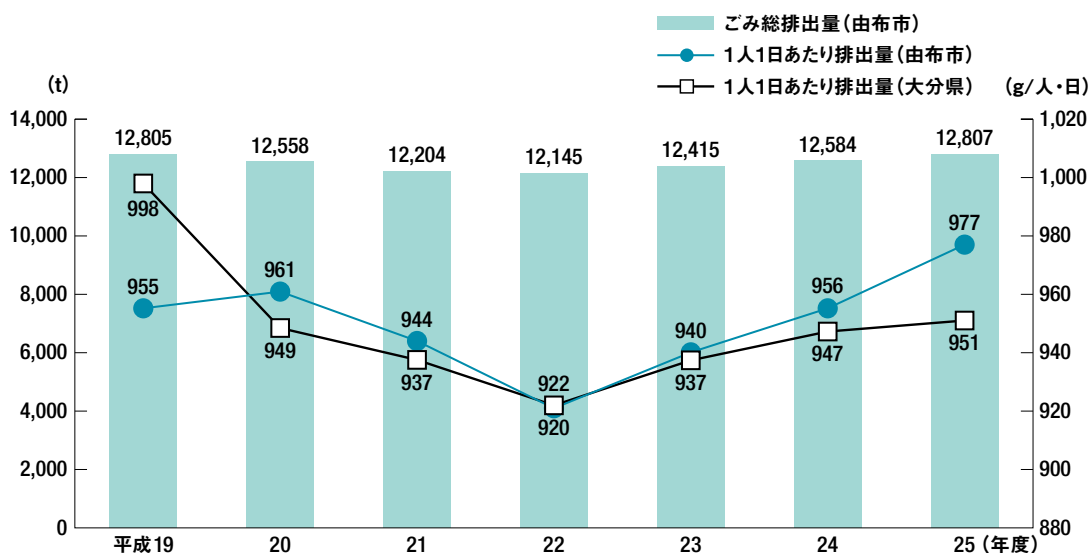


図22 ごみ排出量の推移

資料：一般廃棄物処理実態調査結果(環境省)

リサイクル率が県平均より低い

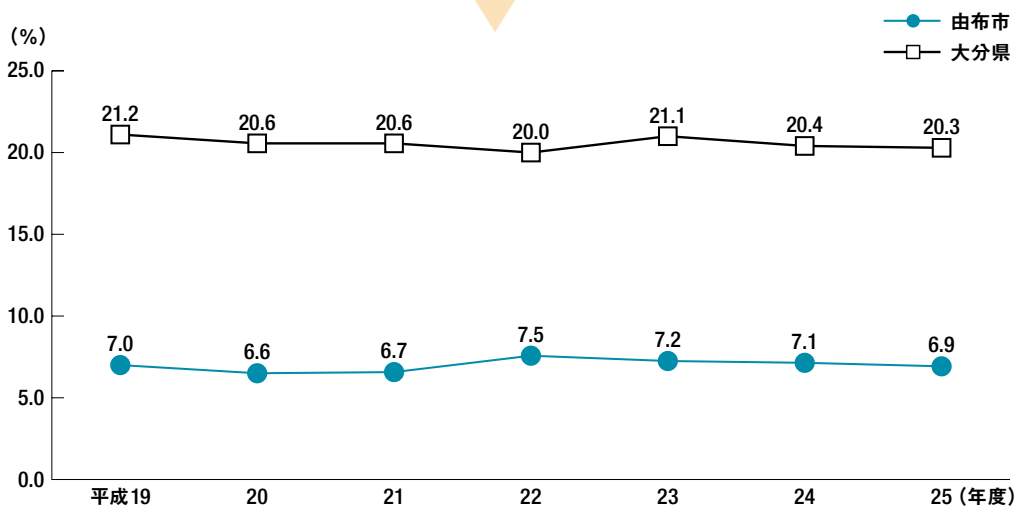


図23 リサイクル率の推移

資料：一般廃棄物処理実態調査結果(環境省)

(9) 温室効果ガス(二酸化炭素)の排出状況

由布市の平成24(2012)年度における二酸化炭素排出量は297千t-CO₂で、平成21(2009)年度以降300千t-CO₂前後で推移しています。産業部門の割合が45%と高く、特に製造業からの排出が全体の3割程度を占めています。

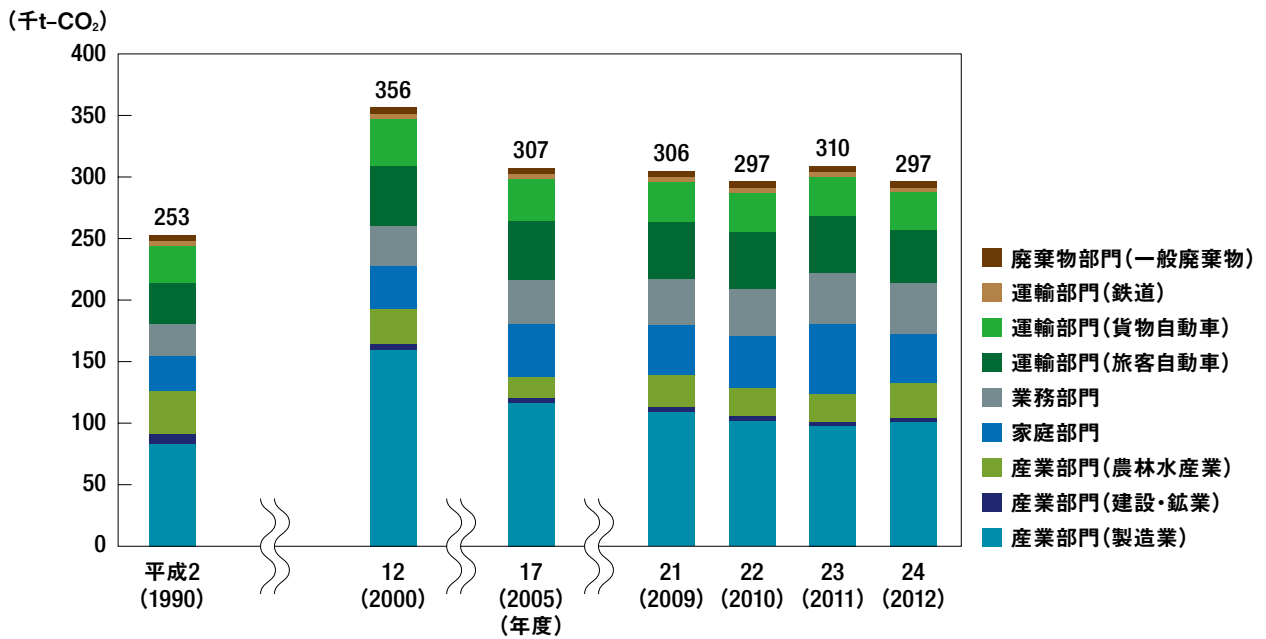
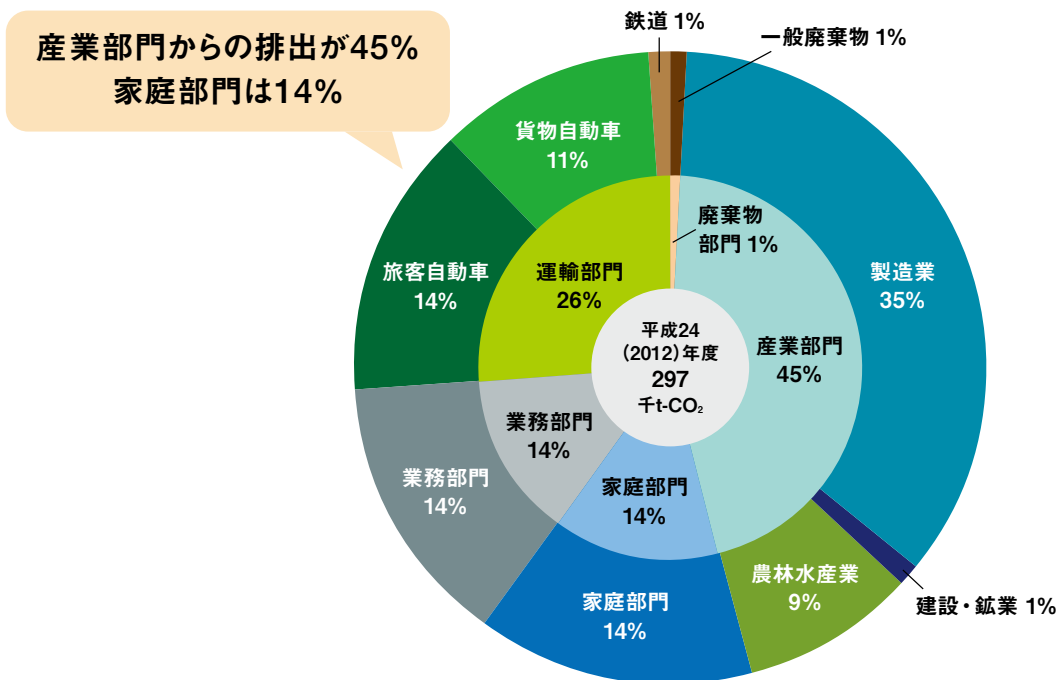


図24 二酸化炭素排出量の推移



産業部門からの排出が45%
家庭部門は14%

資料：地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編) 策定マニュアル(第1版)簡易版(環境省)をもとに推計

図25 平成24(2012)年度における二酸化炭素排出量の内訳

